



# 教材・支援機器活用実践事例

## 【友達との活動を楽しみながら、腕の動きを向上できるようにした指導】

	実施年度	平成29年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	ボールで遊ぼう（ボウリング）
	授業における教師のねらい	○自分の意思で腕を動かし、ボウリングを楽しむことができる。 ○ひもを引っ張るとボールが転がるのが分かり、自らの意思でひもを引っ張ることができる。
	授業における子どもの目標	○ひもを引っ張ってボールを転がすことができる。
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校（知的） 小学部 4学年
	対象の障がい	肢体不自由 ・ 知的障がい
	授業の形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○運動機能障がいに加えて、知的発達の遅れも見られる。また、きこえにくさや見えにくさを抱える児童もいる。そのため、日常生活における直接経験の機会が乏しくなりがちなので、実践的・体験的な活動を多く取り入れるように配慮する。
教材・支援機器活用	使用した教材・支援機器の名称	 <p>装置全体の大きさは、長さ 180cm、高さ 90cm (教室の中ではかなりの存在感)</p>
		 <p>ストッパーとなっている板に取り付けられたひも。ひもを引くことでボールが動き出す</p>
		 <p>ひもを引くと、すぐにボールが転がる方向に視線を変えていました。</p>
	活用のねらい	○自分の意思で動かすことのできる腕で、友だちと同じ遊びができるように専用のスロープを用意して、ボウリングができるようにした。
授業における支援・教材の配慮		○スロープに切れ目を入れて、板を設置しボールを固定してある。板に取り付けてあるひもを引っ張ることで、ストッパーが外れて、ボールが動き出す仕組みである。
子どもの変容や評価		○ひもを引っ張ることで、ボールが動き出すのが分かり、転がるボールを目で追って、そのボールでピンが倒れる様子を見て喜ぶ姿が見られるなど、主体的な取り組みを促すことができた。 ○折りたたみできないため、保管に場所を取るのに改良が必要である。